

久世駅モデル建築物「木テラス」竣工イベント 「まちなか回遊」のランドマークに

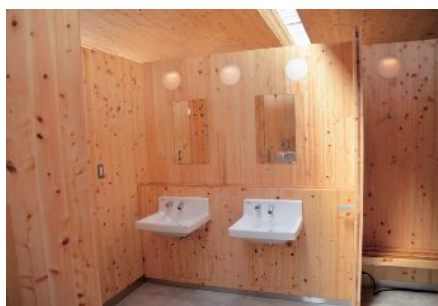
市政トピックス TOPICS



完成した施設について説明する女性建築家



自転車愛好家が利用についての思いを語る



木をふんだんに用いた明るい内装

CLTの普及に向けて、真庭市がJR久世駅前に整備したCLTモデル建築物「木(き)テラス」が完成し、3月20日、オープニングイベントが開かれました。この建物は、「まちなか回遊」のランドマークとして全国公募で選んだ女性建築家が、市民や観光客など多くの人が集う「木の街のテラス」をイメージして設計。暖かい日差しの中、愛慈園太鼓や早川太鼓の演奏が会場を盛り上げました。また、この日に合わせて開催されたバイオマスツアアの参加者約60人は、興味深そうに建物内外を見学していました。

江戸時代の大庄屋の邸宅で真庭市の重要文化財に指定されている目木構で、3月4日に講座と現地見学会が開かれました。現地見学会に先立って行われた講座では、市教育委員会の職員が目木構の沿革や造りに関する調査結果を説明。参加した市内外の歴史愛好家たちは、その後、特別公開された建物内外や2階の屋根の下地に使われている木製のクギ、さらには、建物外部の足場に上って屋根などを間近で見学していました。

真庭市指定重要文化財「目木構」見学会 歴史ある建物を間近に



建物の構造についての説明を聞く参加者



新しい園歌をみんなで元気よく歌う園児

天の川こども園の園歌が完成し、2月27日にお披露目されました。園歌は、福田でピアノ教室を営む橋本美由紀さんと夫の清志さんが手掛け、昨年12月に完成。歌詞には子どもたちの姿を描く「元氣」や「明るい」という言葉、また天津と川東を結ぶという意味を込めた「架け橋」というフレーズが盛り込まれています。園児らは大きな声で元気よく歌い、訪れた保護者や地域の人たちは園児の歌声に聞き入っていました。

天の川こども園の園歌が完成 笑顔をつなぐ架け橋に



市政に関する動きの一部を紹介します

2/21 真庭らしい景観づくりを

「まにわらしさのある景観整備検討委員会」では昨年10月から観光の観点で看板とトイレについて、景観整備の方針を審議してきました。その意見を提言書にまとめ、澁谷俊彦委員長から太田市長に手渡しました。



3/12 地域防災へ決意新たに

真庭市消防初出式が白梅総合体育館で行われました。消防団員や真庭市消防本部の職員ら約1,000人が出席。辞令交付や団長による訓示、表彰などが行われ、地域の防災・防火への決意を新たにしました。



市長室から こんにちは!

若者の新たな人生に幸あれ!

春4月、木々の芽吹きだけでなく、人にとってもスタートの季節。この真庭においても、若者が進学や就職のため、新たな一步を踏み出しました。また、真庭に入って来た人もおられます。そのような中で、嬉しい話を紹介させていただきます。

真庭市の高校卒業生A君から、人を介して手紙を頂きました。「自分は大学卒業後、大好きなふるさと真庭で教員になりたい」というものでした。会うと、穏やかな中に秘めた情熱を持つ清々しい青年で、胸が熱くなりました。

もうひとつは、ある大学で私の講義を受けた学生が感激し、出身地に帰らず、真庭に就職したとのこと。息子の就職地を見に来たお母様から、市民がその事情を聞いて、私に伝えてくれました。

市内外に、真庭を愛し、真庭で頑張ろうとする人達がいる。ありがたさを感じ、こちらが勇気を貰う。そんな思いで新たな人生を歩き始めた若者に幸あれ!



現地の人に感想を聞く国際交流員のローラ

ロンドンで真庭フェア 地域産品を海外でPR

3月10日、英国・ロンドンで「真庭フェア」が初めて開催され、市内の事業者や工芸作家、市職員、国際交流員が、試飲や試食、商品展示などを通じて地酒やお茶、調味料、郷原漆器などのPRを行いました。訪れた人たちは、商品を手に取りながら国際交流員らが英語で行う説明に熱心に耳を傾けており、フェアに参加した真庭市の事業者も確かな手応えを感じて、海外展開への意欲を新たにしています。



グループごとにまとめた意見を発表

ティーチイン岡山 将来や地域の未来を考える

3月16日、湯原中学校で、岡山大学教育学部の学生約20人による出前授業「ティーチイン岡山」が行われました。この授業は、中学生に広い視野で物事を考えてもらうことなどを目的としています。中学2年生のワークショップでは大学生が進行役を務め、将来への不安や地域の未来などについての意見を出し合い、生徒たちは、これまでとは違う新たな視野で将来について考えるきっかけとなりました。